

⇒ 大学において学修するための基礎知識 I～Ⅷ

I. 「履修する」ということ ―所属する学科の課程を学習し修めること―

各学科の課程には、必修科目(所属する学科で必ず履修しなければならない科目)とそれ以外の科目「選択科目」があります。このうち「選択科目」については、皆さんの学習目的に沿って、自分自身で科目を選びます。所属学科の中心的な科目である必修科目を学習するとともに、その周辺科目である選択科目を自分で選ぶことで、自分なりの学習体系をつくりあげていくことになります。なお、履修するためには、大学が定める期間内に「履修登録」する必要がありますので、必ず覚えておいてください。

皆さんは、近い将来、就職活動など、自分の進路を決定しなければならない時期がやってきます。自分の可能性を大きく広げるために、基礎となる大学での学習に、積極的に取り組んでください。

II. 本学の学期はセメスター制

セメスター制とは、1年間を前学期(15週間)と後学期(15週間)の2学期に分け、学期ごとに、担当科目が定められ、授業・試験・成績評価を行う学期制度です。各科目は、半年間で完結します(※一部科目を除く。)

卒業までには、2学期×4年＝8学期(短期大学部は2学期×2年＝4学期)あります。卒業までの4年間(短期大学部は2年間)の履修計画を立て、そして、年度ごとに修正しながら、各学期の担当科目を学習していくことが大事です。

III. 大学の授業科目は単位制 ―学習時間と単位の関係―

各科目の単位数は、文部科学省が定める大学設置基準に基づき、教室における学習時間数と教室以外(授業以外)での学習時間数(予習・復習の時間)の合計で決まります。本学のほとんどの科目が2単位で、2単位を修得するためには、

$$\begin{aligned} \rightarrow \text{授業科目 } 1\text{コマ} &= 2\text{時間}/\text{週}(\text{本学では}90\text{分}) \times 15\text{週間} \\ \text{修得のための予習復習時間} &= 4\text{時間}/\text{週} \times 15\text{週間} \end{aligned}$$

の時間数が必要とされます。

例えば、前学期で24単位(12科目)履修登録した場合、1週間で授業以外に「4時間×12＝48時間」の予習・復習が必要となり、月～土の6日間で考えると、1日平均8時間の予習・復習が必要となります。したがって、無制限に履修登録すると消化不良を起こしてしまいます。そこで本学では、**年間で履修登録できる単位数と学期ごとに履修登録できる単位数にそれぞれ上限を設けています**(※詳細は6ページ「2 履修登録にあたっての注意事項」を参照のこと。)

IV. カリキュラム(学習体系)の特長 ―いろいろあるのが本学の特長―

皆さんは、自分のめざす勉強があって、それぞれの学科を選び、難関を突破して入学してきました。大学では、それに応えるべく、皆さんが満足できる、そして皆さんを、自信を持って社会に送り出せるようなカリキュラムを作っています。カリキュラムには、本学の120年の伝統に培われた教育理念と、学風が盛込まれていることを、皆さんはしっかりと感じ取ることができるでしょう。以下に、科目の種類と学習体系の特長を記します。

◆科目の種類

①【必修科目】

各学科に担当された、学科のめざす専門分野の科目です。簡単に言うと、皆さんが「専門家」になるための絶対必要条件の科目です。必修科目は、必ず履修して、合格の成績評価を受けないと卒業できません。1つでも不合格だと卒業できません。

②【選択科目】

各学科に担当された、より高い専門性を修得するための科目です。皆さんの意思で自由に選択できます。

③【選択必修科目】(※一部学科のみ)

各学科に担当された、学科のめざす専門分野の科目で、限定された科目群の中から、指定された単位数を修得しなければならない科目です。

◆学習体系の特長

【総合教育科目と専門教育科目】

本学のカリキュラムは総合教育科目と専門教育科目の2つに大別されます。

総合教育科目は、幅広い知識と視野を身に付けるとともに、総合的な判断力及び想像力を養うなど、人間形成の基礎となる科目群です。さらに総合教育科目は、導入教育や英語などの全学横断的な「全学共通科目」と、「同系統の複数の学科が集合した学部」で共通する学科横断的な「学部共通科目」の2つに分かれています。

また、専門教育科目は、各学科の専門分野の科目と、学部単位の専門分野の科目に分かれています(※詳細は「学生生活ハンドブック」の履修編「授業科目の概要」を参照のこと。)

【他学科・他学部聴講制度】

本学のカリキュラムの大きな特徴として、他学科・他学部聴講制度があります。これは、他の学科・学部に配当されている科目を、皆さんが自由に選択できる制度です(※実習・実験・演習科目、一部科目を除く。)

本学は、農学から出発し、農学の多様性から生物系の総合大学へと発展してきました。学問領域は、より細分化、より専門化され、学際的視野・知識が必要不可欠とされています。本学は、農学分野の性格上、大局的視野と高度な専門性の修得を教育目標としています。他学科・他学部聴講制度は、本学の教育理念“実学主義”にも通じるもので、現実を広い視野で考え、実社会に役立つ高度な専門性を築いていくことを、学生の皆さんに期待しています。

【英語による専門教育プログラム】(大学のみ)

全学部全学科の学生を対象としたプログラムです。本学の専門的な教育科目を、すべて英語による授業で開講するものです。グローバル化時代に対応した大学教育の必要性から実施するものです。自分の英語の実力アップを計りながら、『Basic』なレベルの科目から『Advanced』な科目へ挑戦してください。

【教職課程(大学のみ)・学術情報課程】

教員免許取得や学芸員、司書の資格を取得したい学生のために開講しています。これらの資格を取得したい学生は、自分で申請して履修手続きをしなければなりません。

V. 履修登録する ー選択科目を選ぶ、そこに自分の可能性が詰まっているー

必修科目以外の選択科目をいかに選ぶか。皆さんが、より良い学習体系を創造していくためのアドバイスです。

① 自分の学習体系を決める。

卒業までの4年間または2年間を総合的に把握し、卒業後の将来を見据えた学習プランを考えてください。

→ 在学生は、成績表をもとに、自分の学習体系を再確認すること。前年度までの学習態度を再検討するのに良い機会でもある。さらに方向修正もできる。

② 科目名をチェック ⇒科目名で大体の内容がイメージできる。

- ◇ 自分の学科配当の選択科目
- ◇ 自分の学部の共通配当科目
- ◇ 他の学科、学部の科目

③ Web シラバス(講義要項)で科目の講義内容をチェック。

科目名だけでは、実際の細かな講義内容はわかりません。Web シラバスには、全科目の学習目的、学習内容、学習計画、評価基準など、詳細が載っていますので、活用してください。

④ 履修登録前に、履修したい候補の講義を受講する。

シラバスで科目の内容がわかったら、実際の講義を聴いて内容をチェックしてください。本当に学びたい科目なのか確認しましょう。履修登録前であれば、自分の興味に応じて自由に授業を聞くことができます(※「上位学年の開講科目」を除く。また、「クラス指定がある科目」等、一部の科目を除く。)

⑤ さあ、履修登録しましょう。⇒履修登録期間をチェック(※5ページに日程を記載)。

前学期の授業開始後に、後学期の開講科目を含めて、1年間分の科目を履修登録します。後学期の科目については、授業に出席せずに登録科目を決めなくてはいけません。後学期開始後に履修の変更登録期間を設けていますので、前学期と同様に登録前に授業を聞くことができます。変更登録期間では後学期開講科目の追加・削除・変更が可能です。

履修登録するための諸注意を、6ページ以降に記載していますのでよく読んでください。

【重要】 履修登録は、定められた期間でしか行うことができません。忘れずに、また、間違いのないよう慎重に登録してください。

VI. 履修モデル

就職・進学するために有益な科目として推奨する「履修モデル」を学科別に記載していますので、参考にしてください(※履修モデルのとおりを受講しないと就職・進学・資格取得ができない、というわけではありません)。

(注意) 履修モデルに記載されている科目のみで、卒業要件単位や資格取得に必要な単位を充足するわけではありません。

当該学科の卒業要件単位(必修・選択必修・選択科目)、資格関係科目を全て修得しなければ、卒業や資格取得(受験資格を含む)することはできません。卒業及び資格取得に必要な単位の詳細は、入学時に配付した「学生生活ハンドブック」等を参照してください。

VII. 学生諸君への注意事項 —自分のことは自分で、責任を持って—

1. 配付した書類は熟読してください。
2. 掲示板や学生ポータルサイトを必ず確認してください。
3. 提出期限は厳格に守ってください(期限後は受け付けません)。
4. **電話での問合せは一切受け付けません。**
5. 教務課(世田谷キャンパス)・学生教務課(厚木 〃)窓口の業務時間(時間外は受け付けません)。
【平日(授業期間)】 世田谷 8:30~19:30、厚木 8:30~17:00

VIII. 学部・学科等の名称の短縮表示・表示順番について

本学では学科等の名称を略して表示することがあります。また、掲示物などの順番も原則として次のように行います。

学 部 名 等	略称名
農学部	農学部
農学科	農学
農業生産科学コース	農
園芸生産科学コース	園
畜産学科	畜産
バイオセラピー学科	セラピー
応用生物科学部	応生学部
バイオサイエンス学科	バイオ
生物応用化学科	化学
醸造科学科	醸造
栄養科学科 食品栄養学専攻	栄養
栄養科学科 管理栄養士専攻	管理
地域環境科学部	環境学部
森林総合科学科	森林
生産環境工学科	工学
造園科学科	造園
国際食料情報学部	国際学部
国際農業開発学科	開発
食料環境経済学科	経済
国際バイオビジネス学科	ビジネス
短期大学部	短大部
生物生産技術学科	短生
環境緑地学科	短緑
醸造学科	短醸
栄養学科	短栄
英語による専門教育プログラム	英語専門
全学共通科目	全学共通
教職課程	教職
学術情報課程	学情

平成26年度（2014年度）年間授業計画

（農学部・応用生物科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部・短期大学部）

月	日（曜日）	行事予定
4	2（水） 3（木）～ 7（月） 8（火） 30（水）	入学式 新入生各学科ガイダンス、新入生健康診断 在学生ガイダンス、在学生健康診断 新入生学外オリエンテーション 前学期授業開始（7/25迄） こどもの日の振替日【休講日】
5	1（木） 2（金） 5（月） 6（火） 18（日）	みどりの日の振替休日 5/6の振替日【休講日】 海の日 7/21の振替日【休講日】 こどもの日【授業日】 みどりの日の振替休日【授業日】 大学の記念日
6	7（土） 30（月）	教育懇談会（予定） 卒業論文題目届の提出期限【卒業年次生】
7	12（土）・13（日） 21（月） 25（金） 28（月）	教育後援会地方懇談会 海の日【授業日】 前学期授業終了 前学期定期試験
8	1（金） 2（土）・3（日） 3（日）・4（月） 4（月）	キャンパス見学会（厚木キャンパス） キャンパス見学会（世田谷キャンパス） 夏季休業 夏季集中授業
9	中旬 18（木） 19（金） 23（火）	前学期定期試験の評価開示 編入学試験 後学期授業開始（1/23迄） 秋分の日【授業日】
10	13（月） 30（木）	体育の日【授業日】
11	1（土） 4（火） 15（土）・16（日） 24（月） 30（日）	収穫祭の実施に伴う休講期間 〔世田谷キャンパス〕 前夜祭 10/30, 収穫祭 10/31～11/2 〔厚木キャンパス〕 前夜祭 10/31, 収穫祭 11/1・2 〔両キャンパス共通〕 準備 10/30, 体育祭 11/3, 後片付け 11/4 推薦入試 勤労感謝の日の振替休日【授業日】 優先入試
12	24（水）	冬季休業
1	2（金） 5（月） 16（金） 17（土）・18（日） 21（水） 23（金） 26（月）～30（金） 30（金）	後学期授業再開 センター試験準備日【休講日】 センター試験日 【休講日】 後学期授業終了 後学期定期試験 卒業論文の提出期限【卒業年次生】
2	3（火）～ 6（金） 中旬	一般入試Ⅰ期 後学期定期試験の評価開示
3	4（水） 6（金） 13（金） 20（金） 21（土）	一般入試Ⅱ期 学校法人の創立記念日 卒業確定者及び進級確定者の発表 卒業式（世田谷キャンパス） 卒業式（厚木キャンパス）

1 履修登録日程

	新入生	2～4年次生	編入・学士編入学生 転学部・転学科生
4月2日(水)	入学式	「履修のてびき」等配付の 日時・場所は学生ポータル サイトで確認すること。	【世田谷キャンパス】 編入・学士編入学生履修説明 13:30～ 441教室 転学部・転学科生履修説明 14:30～ 413教室
4月3日(木)	学科別ガイダンス (各学科指定教室) 履修のてびき等配付 (農学部) (応生学部・短大部)		【厚木キャンパス】 編入・学士編入学生履修説明 10:00～ 1306教室 転学部・転学科生履修説明 10:00～ 1306教室
4月4日(金)	学科別ガイダンス (各学科指定教室) 履修のてびき等配付 (環境学部・国際学部)		
4月8日(火) }	授業開始 【教職課程ガイダンス】 ※詳細は16ページ参照	授業開始	授業開始
4月21日(月) }	前学期履修登録期間(学生ポータルサイトから) ※4月25日(金)は午後5時で終了		
4月25日(金)			
5月9日(金) 夕方	履修登録開示日(学生ポータルサイトにて開示) 各自登録内容を確認する。		
5月12日(月) }	前学期履修修正期間(学生ポータルサイトから) ※5月14日(水)は午後5時で終了		
5月14日(水)			
5月21日(水) 夕方	履修修正登録開示日(学生ポータルサイトにて開示) 各自登録内容を確認する。		
7月21日(月) }	【教職課程申込】 ※詳細は16ページ参照		
9月19日(金) }	授業開始	授業開始	授業開始
	※後学期履修変更期間については7月下旬に日程掲示		
11月	学術情報課程履修説明会 (10月上旬日程掲示) ※詳細は17ページ参照		

※復学・原級・留年の学生は窓口にて履修登録の指示を受けること。

2 履修登録にあたっての注意事項

履修は必ず全員が登録し、登録内容を確認すること(休学者を除く)。

※ 必修科目(当該学年の必修科目)のみ履修する場合でも必ず確認すること。

(1) 履修登録の手順

- ① 用意するもの: 学生生活ハンドブック・履修のてびき(時間割)・シラバス
※ 授業の内容については Web シラバスを参照のこと。
- ② 履修のてびき29ページから記載の学科・学年別時間割を開く。
- ③ 履修のてびき18ページの必修科目自動登録単位数一覧表で自動登録されている科目数を確認する。
- ④ 履修希望科目の履修番号を開講の曜日時限に登録する(19ページの履修登録の入力方法を参照)。
- ⑤ 登録した科目・クラス等は、最終確認のため必ず印刷すること。

(2) 履修登録上の注意事項

- ① 履修番号の登録を間違えると、エラーまたは全く別の科目が登録されるので注意すること。
- ② 在籍学年の必修科目(コース別必修科目を含む)は自動登録されているので登録する必要はない。万が一自動登録科目を変更する場合は、一度科目を削除して新たに登録する科目の履修番号をその時間帯に登録すること(復学・原級・再入学・転学部・転学科及び過去に休学した者は、卒業まで自動登録とならないので、各自で履修番号を登録すること)。
- ③ 次のとおり1年間に履修できる単位数は制限されている(卒業年次生・編入学生・学士編入学生を除く)。制限を超えて登録した場合は、エラーが表示されるので、超えた単位数に応じて科目を削除すること。削除しない場合は、超えた単位数分の科目が自動削除されるので注意すること。

学期ごとに26単位まで・年間50単位まで

【例】： 前学期科目を26単位履修する場合、後学期科目は24単位まで履修できる

※リメディアル科目、教職課程・学術情報課程科目、特別活動プログラムの科目、東京農業大学・短期大学部間の履修科目及び東京情報大学との協定に基づく履修科目は制限の対象外とする。

- ④ 同時限に開講している科目は、いずれかを選んで履修番号を登録すること。
- ⑤ **同一時限に隔週で開講する科目を履修する場合は、同一時限に登録すること。**
- ⑥ 在学年次のクラス分けのある科目は、クラス分け表に基づき、各自のクラスの履修番号を登録すること。
- ⑦ 低学年次のクラス分けのある科目は、クラスを選んで履修番号を登録すること。(一部を除く)
- ⑧ 2時限以上続けて開講する科目は、授業開始時限のみ履修番号を登録すること。
- ⑨ 集中授業科目は、開講学期にあわせて時間割外科目登録欄に履修番号を登録すること。
- ⑩ 通年科目は、前学期授業開始時限のみ履修番号を登録すること。
- ⑪ 高学年次配当科目は履修できない(他学科・他学部履修の場合も同様)。
- ⑫ 栄養科学科の専攻間の履修は認めない。
- ⑬ 東京農業大学の学生が短期大学部の科目を履修する場合、または短期大学部の学生が東京農業大学の科目を履修する場合は、17ページ参照のこと。

履修登録単位数制限の計算方法(大学・短期大学部共通)

履修登録単位数制限:学期ごとに26単位・年間50単位

- ・ 前学期開講科目は前学期の登録単位数としてカウントし、年間の単位数としてもカウントする。
- ・ 後学期開講科目は後学期の登録単位数としてカウントし、年間の単位数としてもカウントする。
- ・ 1年間開講する科目(特別講義など通年科目)は、単位数を2分し、各学期の登録単位数としてカウントし、年間の単位数としてもカウントする。
- ・ 集中開講科目(時間割外科目)は、年間の単位数としてカウントする。

【計算例】

前学期科目 24単位を登録…A 前学期 : $A+C/2=25$ 単位

後学期科目 22単位を登録…B 後学期 : $B+C/2=23$ 単位

通年科目 2単位を登録…C 年間 : $(A+C/2) + (B+C/2) + D=50$ 単位

集中科目 2単位を登録…D

※ この場合、各学期とも26単位を超えず、年間も50単位を超えていないので履修が認められる。

有料科目の納金方法(大学・短期大学部共通)

再履修した場合は、1科目あたり2,000円の再履修料が必要となる。再履修料の納金方法や納金期間については、前学期科目(通年・前学期集中科目を含む)については6月上旬に、後学期科目(後学期集中科目を含む)については12月上旬にそれぞれ設けるので学生ポータルサイトまたは掲示板を確認すること。

※注意事項

- ・ 再履修とは一度履修した授業科目のうち、不合格(不可または未評価)になった授業科目を再度履修することをいう(他学科・他学部聴講した科目を再度履修する場合も同様)。
- ・ 履修登録する科目が再履修科目であるか学生ポータルサイトの成績台帳で確認すること。
- ・ 履修確定表には有料科目を表示する。
- ・ **在学中に納金額の不足が発覚した場合は、その時点で納金することを義務づける。**

3 履修登録上、特に注意を要する授業科目

(1) 必修英語科目

この科目は、所属学部によってクラス分けの方法が異なる。履修については学科ガイダンス等で説明があるので確認すること。農学部と地域環境科学部で再履修する学生は、再履修クラス(Sクラス)を履修すること。

※ 全学共通科目の英語科目は、他学科・他学部履修を認められない。

※ **原則としてクラス変更は認めない。**

(2) スポーツ・レクリエーション(一)・(二)

この科目は履修人数に定員を定めており、**次の日程でクラス分けを行うので、履修希望者は必ず出席すること。**

【世田谷キャンパス】: 第1回目の授業(桜丘アリーナ集合、上履き持参)

【厚木キャンパス】: 4月11日(金)(体育館集合、上履き持参)

なお、定員を大幅に上回った場合は、人数調整を行う。授業担当者から履修を認められた者のみ履修登録できる。

※2年次以上の学生はどの学科のクラスでも履修することができる。この場合は必ず第1回目の授業に出席すること。

(3) 卒業論文・卒業研究

卒業論文・卒業研究は、6月30日(月)までに所属学科へ「題目届」を提出すること。

(4) 隔週開講授業科目

次に記載する授業科目は、2科目を隔週で組み合わせて開講する。履修登録の際、2科目とも履修する場合は、両方の履修番号を開講時限欄に登録すること。

【大学】

隔週開講科目の組み合わせ	
農学 2	生物学実験(農生コース)／農学実習(二)(農生コース)
	生物学実験(園芸コース)／農学実習(二)(園芸コース)
畜産 1	化学実験／生物学実験
セラピー 1	農業実習(二)／共通演習
セラピー 2	生物学実験／分野別基礎実験・実習
森林 2	森林学実験実習／測量実習
工学 2	測量実習／生産環境工学基礎演習
造園 2	測量実習／CAD・GIS基礎演習

開発 2	農学基礎実験／農業専門実習
ビジネス 1	国際バイオビジネス基礎演習(二)／共通演習

【短期大学部】

隔週開講科目の組み合わせ	
短緑 1	環境デザイン実習／CAD・GIS実習
	環境緑地管理実習／測量実習
短緑 2	造園技能実習／造園施工実習

(5) ステップ制のある授業科目

次の科目は、1年次に定められた授業科目の単位を修得することにより、2年次での履修が認められる科目である。履修を希望する場合は、1年次に定められた授業科目を履修し、単位を修得すること。

【短期大学部 醸造学科】

「醸造特別実習(二)」(2年次配当科目)：1年次に醸造特別実習(一)を履修し、単位を修得すること。

(6) クラス分けのある授業科目

- ① **クラス分けは、所属学科の在学年次の開講科目のみに適用される(クラス分けのある科目は、クラス分け表に基づき自分の所属するクラスを確認すること)。**
- ② 総合教育科目の時間割に大文字のA・B・C…でクラス分け表示がある場合は、オープン科目である。各自の時間割に合わせて選択し、受講すること。
- ③ 再履修はクラスを選択できる(栄養・管理・短栄を除く)。ただし、情報基礎は最後のクラスで履修すること。
- ④ 教職課程の時間割に、大文字のA・Bでクラス分け表示がある場合は、クラスを選んで履修すること。
- ⑤ 学科指定のある科目は、自分の学科で履修すること(ただし低学年次配当科目については、クラスを選んで履修することができる)。一部を除く。

(7) リメディアル教育科目

リメディアル教育科目は、原則として1年次の前学期に開講する。年度当初に受講対象者を決定し、対象学生は指定の授業に必ず出席しなければならない。**同科目は卒業要件単位には含まれないので、注意すること。**

(8) 他学科・他学部聴講・大学間履修

- ① 他学科・他学部聴講を希望する場合は、各学科の時間割を参照し、希望科目の履修番号を登録すること。
(クラス分けのある科目はクラスを選んで履修番号を登録すること)
- ※ 所属学科(配当学年を問わず)にある科目と同名の科目は他学科・他学部履修を認めない。
(9～10ページ参照)※キャリアデザインなどの就職準備科目も他学科・他学部履修を認めない。
- ② 他学科・他学部聴講は、高学年次配当科目の履修はできない。
- ③ 他学科・他学部・大学間履修の履修登録単位は、在学中合計30単位(短大部は他学科・大学間履修で15単位)を上限とする。**※ 合否にかかわらず、履修登録した時点で単位数をカウントする。**
- ④ **栄養科学科(食品栄養学専攻および管理栄養士専攻)の「栄養士関係科目及び管理栄養士関係科目」の他学科・他学部・大学間履修は一切認めない。**
- ⑤ **短期大学部栄養学科「栄養士関係科目」の他学科・大学間履修は一切認めない。**
- ⑥ 実験・実習・演習科目は、他学科・他学部聴講を認めない(※国際食料情報学部共通の配当科目「海外農業研修」、国際農業開発学科の配当科目「海外農業実習(一)(二)」を除く。)
- ⑦ 生産環境工学科の「数学」「応用数学」は、他学科・他学部聴講を認めない。
- ⑧ 各学部総合教育科目の英語科目は、他学科聴講・他学部聴講は認めない。

(9) その他、各学部の特有用科目

- ① 農学部の初修外国語関係科目「中国語(一)・(二)、ドイツ語(一)・(二)、フランス語(一)・(二)、スペイン語(一)・(二)」を農学部(農学科・畜産学科・バイオセラピー学科)の学生が履修する場合は、在学中、いずれかひとつの語学を選択して履修すること(在学中に複数の語学を選択することは認められない)。
- ② 応用生物科学部の初修外国語関係科目「中国語・スペイン語」を応用生物科学部の学生が履修する場合は、いずれかを選択して履修すること(複数の語学を選択することは認められない)。
- ③ 地域環境科学部の初修外国語関係科目「ドイツ語・中国語」を地域環境科学部の学生が履修する場合は、いずれかを選択して履修すること(複数の語学を選択することは認められない)。
- ④ 前学期に履修登録した科目について、単位を修得できなかった場合、後学期に同名科目を再度履修することは認められない。

(10) 同名科目

次の表は、複数の学部・学科で開講している同名の授業科目一覧である。履修登録にあたっては以下の点に注意すること。

- ① **所属学科(配当学年を問わず)にある科目と同名の科目は、他学科・他学部履修ができない。**

【例】：生物応用化学科の学生は、バイオサイエンス学科の「細胞生物学」を履修できない。
→生物応用化学科は2年次に「細胞生物学」開講があるため。

- ② 同名科目において、既に単位修得している場合は再度の履修は認められない。

【大 学】

科目名	学部	学科	学年
化学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
生物学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
日本国憲法	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	2
	環境学部	全学科	2
	国際学部	全学科	1
地学	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	2
中国語(一)	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
中国語(二)	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
物理学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
文章表現	農学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
スペイン語(一)	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
スペイン語(二)	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1

科目名	学部	学科	学年
生命倫理	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
フランス語(一)	農学部	全学科	2
	国際学部	全学科	1
フランス語(二)	農学部	全学科	2
	国際学部	全学科	1
環境科学	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	3
経済入門	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	2
生命科学	農学部	全学科	3
	応生学部	全学科	3
ドイツ語(一)	農学部	全学科	2
	環境学部	全学科	1
ドイツ語(二)	農学部	全学科	2
	環境学部	全学科	1
農業経営学	農学部	全学科	3
	国際学部	全学科	2
食品衛生学	農学部	畜産	3
	応生学部	バイオ	3
	応生学部	化学	3
	応生学部	栄養	2
食品化学	応生学部	管理	2
	応生学部	バイオ	2
食品機能学	応生学部	醸造	3
	応生学部	醸造	3
食品微生物学	応生学部	栄養	3
	応生学部	管理	3
食品微生物学	農学部	畜産	2
	応生学部	醸造	1
	応生学部	醸造	1
	応生学部	栄養	2
測量学	環境学部	森林	1
	環境学部	工学	2
	環境学部	造園	2

科目名	学部	学科	学年
科学と哲学	農学部	全学科	3
	応生学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
基礎化学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
基礎生物	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
統計学	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	2
農と科学の歴史	応生学部	全学科	1
	国際学部	全学科	2
基礎数学	農学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
数学	農学部	全学科	1
	応生学部	バイオ	1
	環境学部	工学	1
	国際学部	全学科	1
生化学(二)	応生学部	醸造	2
	応生学部	栄養	2
	応生学部	管理	2
生物統計学	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
	応生学部	バイオ	1
生物有機化学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	化学	2
	応生学部	栄養	3
分子生物学	農学部	全学科	3
	応生学部	化学	2
	応生学部	栄養	2
遺伝学	農学部	農学	1
	農学部	セラピー	1
家畜栄養学	農学部	畜産	1
	農学部	セラピー	2
家畜管理学	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
環境化学	応生学部	化学	2
	応生学部	醸造	3
細胞生物学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	化学	2
植物生理学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	化学	2
土壌学	農学部	農学	1
	応生学部	化学	3
動物細胞工学	農学部	畜産	3
	応生学部	バイオ	2
無機化学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	栄養	1
有機化学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	栄養	2
	応生学部	管理	2
有機化学(一)	応生学部	化学	1
	応生学部	醸造	1
有機化学(二)	応生学部	化学	1
	応生学部	醸造	2

科目名	学部	学科	学年
微生物学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	化学	2
	応生学部	栄養	1
	応生学部	管理	1
分析化学	応生学部	醸造	1
	応生学部	栄養	1
	応生学部	管理	1
公衆衛生学	応生学部	醸造	2
	応生学部	栄養	2
実験動物学	農学部	畜産	1
	応生学部	バイオ	3
食品加工学	応生学部	醸造	1
	応生学部	管理	2
食品製造学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	化学	3
生化学	農学部	畜産	1
	応生学部	バイオ	1
生化学(一)	応生学部	醸造	2
	応生学部	栄養	2
	応生学部	管理	2

【短期大学部】

科目名	学部	学科	学年
食品衛生学	短大部	短醸	2
	短大部	短栄	1
食品化学	短大部	短醸	1
	短大部	短栄	1
有機化学	短大部	短醸	1
	短大部	短栄	1

4 英語による専門教育プログラムの履修登録【履修対象:学部生のみ】

Courses Offered by Special Program (Conducted in English) :

「Agriculture, Food and Environment」

◎ 「英語による専門教育プログラム」受講のすすめ

本プログラムは 2002 年度から開講しており、年度を追うにつれて次第に受講生も増加してきました。本プログラムは、日本人の学生はもとより海外からの留学生に対して、日本およびほかのアジア諸国における食料、農業ならびに環境に関する現状と課題を総合的に理解してもらうことを目的に、英語で開講しているものです。英語での授業を通じて、日本人の学生にとっては、自分の専門分野を英語で習得するよい機会となってそれが留学プログラムを立案したり、International Studies をより深く理解することに役立ち、また留学生にとっては日本語の授業で十分理解しえない部分を習得できる絶好の機会となります。将来を通じた自分のキャリア・ステップを考慮に入れて、受講されることを強く勧めます。

(1) Program Title:

Special Program (Conducted in English) : Agriculture, Food and Environment

(2) Rationale

An integrated approach is important for the solution of problems of mankind in such areas as food, environment, health, resources and energy, which are all mutually related and interwoven. The food problem generally refers to problems of food production, distribution and consumption, thus covering a wide range of topics. For instance, food production is closely related not only to natural environment but also agricultural and food processing technologies. Distribution of food is determined by political and economic mechanisms, while improved storage and distribution technologies have tremendously contributed to the widening scope of marketing. Food consumption is highly related to the level of income but culture, social norms and dietary habits are other key determinants of what and how people consume food.

Modern agricultural science has greatly contributed to increased food production, which has expanded beyond global population growth. However, problems of environmental destruction and unassured food safety have also emerged. The urgent need to assure environmental conservation and safe food supply are now globally recognized. At Tokyo University of Agriculture, a multidisciplinary, all-university-education program is now being offered for the study of food and environment. Integrated learning of agriculture, food and environmental issues guides students to see how they can make a contribution to solving global issues in the 21st century.

This program provides the opportunity for Japanese students as well as international students to gain holistic understanding on issues of food, agriculture and environment in Japan and other Asian countries.

(3) Time Table (in 2014)

This program was established in April 2002 (not listed in the 2002 course catalogue). The courses are offered to all students in 2014. It is our advice that you select courses according to your English ability.

【First semester】

Environment and Landscape of Japan

Environment Conservation in Asia

Environment, Society and Culture

Food and Environment in Economic Development

Food and Nutrition

Global Food Systems
Japanese Agricultural Development
Principles of Environment and Agriculture

【Second semester】

Agricultural Trade
Comparative Developing Agriculture
Comparative Food Production Technologies
Ecology and Food Production
Farmers and Consumers in Japan
Field Study of Food and Environment (intensive)
Food and Culture
Group Approach to Food and Environment (intensive)
Sustainable Agriculture in Asia (intensive)

(4) Credits

Each course carries two credits. Credits earned in this program can be counted for graduation requirements, to a maximum of 30 credits under the inter-faculty enrollment system, as specified in Article 15 (3) in the TUA Constitution.

(5) Examination and Grade

Examinations are conducted during the lecture period. Students are requested to follow the instruction of the lecturers. Since supplementary examinations will not be provided, unsuccessful students are required to re-enroll in the following years.

(6) Fees Required

No additional payment is required. However, as fieldtrips and experiments are needed, the students enrolled in Environment and Landscape of Japan, Environment Conservation in Asia, Field Study of Food and Environment, Group Approach to Food and Environment, and Sustainable Agriculture in Asia are required to cover their own expenses. Details will be given in the class.

(7) You may sit-in under this program

For those students who are interested in the program but are unsure of their English competency, auditing is allowed upon permission from the lecturer. No registration is required in this case, but students can make a formal registration after gaining confidence.

5 平成26年度特別講義一覧

はじめに

特別講義は、学生のみなさんが幅広い教養・素養を身につけ、卒業後各方面で最大限に能力を発揮できるようになることを目的として開講します。本学の専門分野の教育は充実しており、その内容・成果に十分な自信を持っていますが、それに加えて、教養面での教育を重視する意味で、様々な内容による特別講義を開講します。

平成26年度の特別講義は、専門教育を補完し、社会に出て役立つ、さらに就職試験にも役立つ多分野の教養的講座として厚木キャンパスでは1コース、世田谷キャンパスでは6コースを開講します。

なお、特別講義(一)～(四)(※短期大学部は(一)・(二))は開講時間が重ならなければ複数履修することができます、上級学年になってからでも履修することができます。

●厚木キャンパス開講コース

特別講義

●世田谷キャンパス開講コース

特別講義

- A コース 海外現場事情 ―国際活動実践論―
- B コース 実践文章表現 ―ジャーナリスト入門―
- C コース 源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験基礎コース
- D コース 源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験応用コース
- E コース 日本農業のサステナビリティ学(持続可能性)
- F コース 公開講座を聴く ―現代を生きる幅広の教養を―

●コース別開講目的

<厚木キャンパス>

特別講義

<コーディネーター 農学部長・畜産学科 教授 鈴木敏郎>

これからの農学は、専門性を越えて、他の領域を取り込んで新たな体系化を図ることや、遺伝子から地球環境にいたるまで幅広い視点から課題を解決することが要求されている。この講義は、農業生産や人との関わりへの貢献等、農学領域で注目される動植物や微生物の力に焦点をあて、動植物の能力、その活用やつながりなどについて幅広く展開する。

<世田谷キャンパス>

A コース. 海外現場事情 ―国際活動実践論―

<コーディネーター 国際農業開発学科 教授 入江憲治>

本学は国際社会で活躍する多数の卒業生を輩出している。これらの活動に関連する学科の科目は、既に国際農業開発学科を中心に幾つかの学科のカリキュラムに配当されている。

本講義ではさらに、海外活動の現場で惹起する問題への実践的な対応力の向上に必要な実体験からのノウハウやアダプタビリティについて最新の情報を提供するものである。具体的には、国際機関、ODA、NGO、NPO、民間企業において活躍する経験者、有職者、本学卒業生による実践活動、そこでの苦勞・苦心・喜怒哀楽などの体験談や、これらの活動に対する実技術・知識・ノウハウを教授し、併せて海外体験の奨励を図る。

なお、本講義では海外活動への参画を大望する学生へ、そのチャンスと試験などアプローチの方法についても紹介する。

B コース. 実践文章表現 ―ジャーナリスト入門―

＜コーディネーター 応用生物科学部 教授 北村行孝＞

論理的で、わかりやすく、誤解を招かない文章を書くためにはどうすればよいのか。各種の文章を作成することにより、文章表現の素養や技法を身につける。素材として新聞記事や時事問題を取りあげて、社会への関心を深める。また、長年新聞記者として報道・論評の現場に身を置いた経験を生かし、多様化するメディア環境のなかで、情報をどう受け止め発信するかというメディアリテラシーを高めるための指導を行う。

C コース. 源流大学 ―多摩川源流域で源流学を学ぶ―体験基礎コース

＜コーディネーター 森林総合科学科 教授 宮林茂幸＞

このコースは、本学が多摩川源流域の山梨県小菅村で行っている「多摩川源流大学」プロジェクトに参加し、講義と体験実習をとおして源流域の自然や文化を学ぶ。学内において源流域の自然や文化を学ぶ講義を受講しながら、学んだことを実際に現地で体験実習することで、内容を確認し自らのものにするを目的としている。また、体験実習では小菅村の住民の方々を講師に迎え、森林整備活動として間伐や枝払い、農地での開墾や野菜の栽培、その他郷土食料理調理実習など様々な実習を通して現地の知恵を中心に学んでいく。なお、実習は小菅村だけでなく、岩手県一関市、福島県鮫川村等でも行い、流域や農山村に関わる幅広い知識の獲得と体験を行う。

これらをとおして農山村の現状を学び地域問題の理解と解決能力の向上を養う。

D コース. 源流大学 ―多摩川源流域で源流学を学ぶ―体験応用コース

＜コーディネーター 森林総合科学科 教授 宮林茂幸＞

このコースは、多摩川源流域の山梨県小菅村にある「源流大学」で、昨年基礎コースを修了した学生を対象に、実習を行う。このカリキュラムでは最終実習での村民へ向けた発表会にむけて、1年間専門的に農業、林業など自分の興味があるコースを選択し学ぶことができる。例えば源流域の森林管理や整備に関する基本的な森林調査や、また、源流域の農業体験では、地形的にも、規模的にも厳しい条件にあり、そうした中で、手の労働による農業技術、加工技術等を学ぶ。より深く源流文化に触れ、将来地域に入って活躍できる人材を育成する。

E コース. 日本農業のサステナビリティ学(持続可能性)

＜コーディネーター バイオサイエンス学科 教授 林隆久＞

初代学長の横井時敬「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」の初心に戻り、我が国の農林業の現場における研究課題を発見・解決する実学主義の理念を講義する。今日の日本の農業は、飼料米生産調整やTPPに伴う、食料自給率の低下で揺れ動いている。日本の農業問題に焦点を当て、日本の農林畜産業の持続可能性を検証する。

F コース. 公開講座を聴く ―現代を生きる幅広い教養を―

＜コーディネーター 副学長・醸造科学科 教授 小泉幸道＞

本学の教員および社会、経済、政治、文化、歴史、芸術、スポーツなどの各分野で活躍している学外講師による一般および専門教養を中心にトピックスな話題をテーマとし、社会生活上、必要な幅広い教養と社会性、美的センス、バランス感覚を身につけることを目的に開講する。併せて、市民に対し公開講座としても開講している。

特別講義(世田谷キャンパス開講)の履修登録について

履修する場合は、次のA～Fコースの中から受講するコースを選び履修登録すること。

コース	学期	曜日/時限	科目名	教員	教室	備考
Aコース	通年	木 5～6	海外現場事情 -国際活動実践論-	入江憲治	441	
Bコース	前学期	木 5	実践文章表現 -ジャーナリスト入門-	北村行孝	511	
Cコース	集中(通年)		源流大学 -源流域で源流学を学ぶ- 体験基礎コース	宮林茂幸	後日揭示	
Dコース	集中(通年)		源流大学 -源流域で源流学を学ぶ- 体験応用コース	宮林茂幸	後日揭示	
Eコース	後学期	月 5	日本農業のサステナビリティ学(持続可能性)	林隆久	231	
Fコース	前学期	水 5～6	公開講座を聴く -現代を生きるための幅広い教養を-	小泉幸道	百周年記念講堂	

【注意事項】

- 学部生は、特別講義(一)～(四)を履修することができる。
- 短大生は、特別講義(一)～(二)を履修することができる。

	Aコース	Bコース	Cコース	Dコース	Eコース	Fコース
	木 5～6	木 5	集中	集中	月 5	水 5～6
特別講義(一)	4235	4236	4243	4244	7586	4231
特別講義(二)	4237	4238	4245	4246	7587	4232
特別講義(三)	4239	4240	4247	4248	7588	4233
特別講義(四)	4241	4242	4249	4250	7589	4234
短大生	4152	4154	4156	4158	7590	4160
短大生	4153	4155	4157	4159	7591	4161

平成26年度 東京農業大学公開講座一覧

平成26年度の公開講座を以下のとおり開講します。公開講座は、広く地域社会・市民に提供するものです。学生の皆さんも積極的に聴講してください。

(注意) 公開講座は特別講義Fコース「公開講座を聴く」です。単位修得を希望する場合は、履修登録してください。

No	開講日	テーマ	氏名	所属・役職
1	4月23日	日本料理を知る ーおいしさの作り方ー	柳原 尚之	柳原料理教室副主宰
2	5月7日	東京農業大学東日本支援プロジェクト (農地復元)	後藤 逸男	東京農業大学 応用生物科学部 教授
3	5月14日	震災復興支援ボランティアは未来への 教科書だ	宮田 正信	東京農業大学 農学部 助教
4	5月21日	東京農業大学東日本支援プロジェクト (森林復元)	林 隆久	東京農業大学 応用生物科学部 教授
5	5月28日	木材とその利用 ー地球環境を保全するためにー	大林 宏也	東京農業大学 地域環境科学部 教授
6	6月4日	みんなで考えよう健康な食生活 ー食・農・環境の観点からー	上岡 美保	東京農業大学 国際食料情報学部 准教授
7	6月11日	三井住友銀行の成長産業への取り組み	工藤 禎子	三井住友銀行 プロジェクトファイナンス 営業部部長 成長産業クラスター室長
8	6月18日	旬の政治解説	島田 敏男	NHK解説委員
9	7月2日	発酵食品のおいしさ	前橋 健二	東京農業大学 応用生物科学部 准教授
10	7月9日	お酒と酔い	穂坂 賢	東京農業大学 短期大学部 教授

※入場無料 午後4時20分から 場所:百周年記念講堂

6 特別活動プログラム

プログラム設置の目的

学生諸君が取り組んでいるクラブ活動や社会活動など様々な活動を、本学の「個性ある教育」及び人格形成や社会性の涵養など人間教育的観点から意義あるものと位置づけ、積極的に評価し、その単位化を計ることを目的としている。また、これらの活動を単位化することにより、学生諸君の取り組み姿勢を明確にするとともにその内容や意欲のより一層の充実を図ることを合わせて目的とする。

対象とする具体的活動

活動区分	対象とする具体的活動
(1) クラブ活動(一)～(四)	体連、文連、総務、応援団、学科統一本部、同好会
(2) 国際学生交流活動(一)～(四)	学生サミット、留学生支援、大学間交流支援など
(3) 環境マネジメント活動(一)～(四)	ISO、学内外環境管理活動
(4) ボランティア活動(一)～(四)	地域貢献、国際貢献、環境保全、NPO活動、学習支援活動(小・中学校・クラブ活動支援)、福祉活動(高齢者・障害者介護支援)など

単位認定の特色とカリキュラム上の位置づけ

本活動に関する単位認定の特徴は、通常の科目のように教員の教育目標やシラバスに基づき行う講義や実験・実習、その成績評価のシステムではなく、学生自らが主体的に取り組んだ活動について、学生本人が、活動の責任者の承認を受け単位認定を申請するシステムである(履修申請は不要、活動の指導者、責任者が一括承認も可とする)。最終的には、学生の申請書類(活動記録等)をもとに単位認定委員会が審査し、単位認定を行う。

単位数は1年(あるいは短期集中1活動)を1単位とし、申請は単年度申請とする。同一年度における同一活動区分での複数申請は行えない。なお、修得総単位数のうち、一定単位(大学4単位、短大2単位)を卒業要件として認める。

修得した単位は、卒業要件として他学科履修・他学部履修・英語による専門教育プログラム・日本語科目と合わせて30単位まで(短大部は他学科履修と合わせて15単位まで)含めることができる。なお、当プログラムによる修得単位は、年間及び学期ごとの履修制限単位数には含まない。

【申請書類提出の手順について】

(1) 活動区分「(1)クラブ活動」の申請手順

単位修得を希望する学生は、特別活動プログラム年間活動報告書(様式A)を毎年12月末までに部長・顧問等に提出すること。年間活動報告書(様式A)の提出をもって「特別活動プログラム・クラブ活動」の単位認定申請として取り扱う。

なお、申請手順(申請日程、年間活動報告書様式の入手方法等)の詳細は、毎年11月上旬に、学生ポータルサイトに掲示する。

(2) 活動区分「(2)国際学生交流活動、(3)環境マネジメント活動、(4)ボランティア活動」の申請手順

単位修得を希望する学生は、特別活動プログラム申請書(様式B)を、学生課(厚木キャンパスは、学生教務課)へ1月中旬までに提出すること。特別活動プログラム申請書(様式B)の提出をもってそれぞれの活動区分の単位認定申請として取り扱う。

なお、申請手順(申請日程、年間活動報告書様式の入手方法等)の詳細は、毎年11月上旬に、学生ポータルサイトに掲示する。

※単位が認定された申請書類は、学生ポータルサイトにて学内に公開することがある。

(3) 単位修得の確認

当プログラムの単位認定結果については、2月に開示する履修成績表に記載する。なお、プログラムの性格上、追試験は実施しない。

7 全学共通科目「日本語」の履修登録

この科目は、外国人留学生及び帰国子女を対象として開講する授業科目である。**修得した単位は、卒業要件として他学科履修・他学部履修・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムと合わせて30単位まで(短大は他学科履修と合わせて15単位まで)含めることができる。**

- ※ 農学部の学生が、世田谷キャンパスの日本語科目を履修する場合は、学生教務課に申し出ること。
- ※ 開講は学部のみ。短期大学部の学生が履修する場合は、大学間履修の手続きをすること。

8 大学間履修(東京農業大学の学生が短期大学部の授業科目を履修する場合、または短期大学部の学生が東京農業大学の授業科目を履修する場合)について

東京農業大学(以下「大学」という)の学生が短期大学部の授業科目を、また短期大学部の学生が大学の授業科目をそれぞれ履修することができる。ただし、別大学の授業科目として取り扱うため、履修登録方法や修得単位の取扱い及び履修料金等については以下の取り決め事項が適用となる。履修希望者は十分理解の上、所定の手続きを行うこと**(学生ポータルサイトからの履修登録とは別手続きになるので注意のこと)**。

(1) 履修できる授業科目

各学科の選択科目(配当学年に関係なく履修できる)。ただし、**次の科目は履修を認めない。**

- 必修科目、コース別必修科目、選択必修科目
- 英語科目
- 実験・実習・演習科目
- 教職課程科目
- 学術情報課程科目
- 英語による専門教育プログラム関係科目
- 栄養科学科及び短期大学部栄養学科の「栄養士関係科目」「管理栄養士関係科目」
- リメディアル教育科目

(2) 履修登録単位数の上限

- ◇ 大学の学生が短期大学部の授業科目を履修する場合
⇒ 大学間履修・他学科履修・他学部履修と合わせて30単位以内
- ◇ 短期大学部の学生が大学の授業科目を履修する場合
⇒ 大学間履修・他学科履修と合わせて15単位以内

(3) 単位認定について

修得した科目は、他大学等での修得科目として成績台帳に記載する。また、修得単位の合計を選択科目の卒業要件単位として認定する。

(4) 履修手続方法

- 前学期の開講科目は **4月8日(火)**以降に教務課窓口にて履修届用紙を配付する。
- 後学期の開講科目は **9月下旬**に教務課窓口にて履修届用紙を配付する。
- ※ 厚木キャンパスは、学生教務課で履修届用紙を配付する。
- ※ 登録後の変更は一切認めない。
- ※ **1年次生は大学間履修登録することができない。**

(5) 履修届提出期間

【前学期】 **4月8日(火)~4月14日(月)**

【後学期】 **9月下旬**(予定)

(6) 履修に係る料金

1科目(半期2単位)につき、15,000円

※ **学部生は在学中12単位まで、短大生は在学中6単位までは無料。**

(7) 履修した場合の試験

定期試験及び追試験を実施する。

9 東京情報大学との協定に基づく科目の履修登録

- ※ 教務課窓口で確認のこと。

10 必修科目自動登録単位数一覧表

【大学】

(単位)

学科名	学期	2年次	3年次	4年次
農学 (農生コース)	前学期	4/26	6/26	6
	後学期	4/26	6/26	6
	年間	8/50	12/50	12
農学 (園芸コース)	前学期	4/26	6/26	6
	後学期	4/26	6/26	6
	年間	8/50	12/50	12
畜産	前学期	12/26	7/26	3
	後学期	18/26	1/26	3
	年間	30/50	9/50	6
セラピー	前学期	4/26	3/26	5
	後学期	4/26	3/26	5
	年間	8/50	6/50	10
バイオ	前学期	20/26	8/26	2
	後学期	21/26	6/26	2
	年間	41/50	14/50	4
化学	前学期	14/26	10/26	2
	後学期	15/26	2/26	2
	年間	29/50	12/50	4
醸造	前学期	12/26	9/26	2
	後学期	16/26	9/26	2
	年間	28/50	18/50	4
栄養	前学期	16/26	2/26	2
	後学期	16/26	6/26	2
	年間	32/50	8/50	4
管理	前学期	16/26	4/26	2
	後学期	10/26	6/26	2
	年間	26/50	10/50	4
森林	前学期	12/26	2/26	2
	後学期	16/26	2/26	2
	年間	28/50	4/50	4
工学	前学期	7/26	2/26	4
	後学期	6/26	2/26	2
	年間	13/50	4/50	6
造園	前学期	12/26	12/26	2
	後学期	14/26	6/26	4
	年間	26/50	18/50	6

学科名	学期	2年次	3年次	4年次
開発	前学期	9/26	2/26	2
	後学期	7/26	2/26	2
	年間	16/50	6/50	4
経済 (食料コース)	前学期	10/26	4/26	3
	後学期	8/26	4/26	3
	年間	20/50	8/50	6
経済 (環境コース)	前学期	10/26	4/26	3
	後学期	8/26	4/26	3
	年間	20/50	8/50	6
経済 (都市コース)	前学期	12/26	4/26	3
	後学期	6/26	4/26	3
	年間	20/50	8/50	6
経済 (貿易コース)	前学期	12/26	2/26	3
	後学期	6/26	6/26	3
	年間	20/50	8/50	6
ビジネス	前学期	10/26	2/26	3
	後学期	6/26	2/26	3
	年間	16/50	4/50	6

【短期大学部】

(単位)

学科名	学期	2年次
短生	前学期	5
	後学期	7
	年間	12
短緑	前学期	6
	後学期	2
	年間	10
短醸	前学期	11
	後学期	5
	年間	16
短栄	前学期	3
	後学期	3
	年間	6

○この表は自動登録してある必修科目の単位数を表示している。

○この単位数を確認し履修登録単位数制限以内で履修登録を行うこと。

※登録されている必修科目を取り消して別の科目を登録する場合は、当該科目の開講曜日・時限に履修番号を登録すること(これにより自動登録されている必修科目は削除される)。

○次の学生は、自動登録されないのので、必修科目についても履修番号を登録すること。

復学・原級・再入学・編入学・学士編入学・転学部・転学科及び過去に休学した者。

○前年度までに履修登録した他学科・他学部聴講及び大学間履修の登録総単位数を成績台帳で確認して上限を超えて登録しないよう注意すること。

11 履修登録の入力方法

履修登録は学生ポータルサイトの照会「履修登録(修正)」からできる。登録方法は以下のとおり。

(1) 学生ポータルを開き「履修登録・修正」をクリックする。

「教務情報」タブを選択。
「履修登録(修正)」を押下。

【注】住所確認(または変更)を行っていない学生は、Web 履修システムへログインすることができません。

(2) ログイン画面

ユーザID(学籍番号)とパスワードを入力する。

(3) ユーザ情報バー






ログインしたユーザの学籍番号、氏名、所属が表示される。

- ①お知らせ……………お知らせ画面が表示される。
- ②前期・通年履修届……………前期の時間割表が表示される。前期・通年の履修登録操作もこの画面から行う。
- ③後期履修届……………後期の時間割表が表示される。後期の履修エントリー操作もこの画面から行う。
- ④履修届チェック……………履修登録の内容をチェックした結果が表示される。エラーや警告がある場合は再度登録操作を行うこと。
- ⑤終了……………作業を終了する。終了前には、必ず履修届チェックを行うこと。

(4) 履修登録を新規追加する

新しく履修登録を追加(履修を申請)する方法について。

- ① 時間割表にある新規追加アイコン(鉛筆アイコン)をクリックする。

	月曜日	
1時限		
2時限		
3時限		
4時限		
5時限		

鉛筆アイコンをクリック

- ② 申請する科目の開講番号(4桁の数字)を入力し、「確認」ボタンをクリックする。

「該当する開講がありません」というエラー通知が表示された場合は、入力した開講番号を確認し、再度操作を行うこと。

開講番号	1161	確認	前期・通年 火3
------	------	----	----------

- ③ 表示された開講の情報を確認する。

開講番号	1161	確認	前期・通年 火3
開講番号	1161	単位数	2
開講科目名	数学		
専攻(学科)	バイオ		
学年	1	クラス	
学期	前期	時間種別	通常開講
曜日・時限	火3		
担当者	林 大智		
施設			

科目名・曜日時限・担当者等を確認したら「登録」ボタンをクリック

戻る

登録

※開講科目名をクリックするとシラバスが表示されます

- ④ 「登録」ボタンをクリックして追加する。

追加しない場合は「戻る」ボタンをクリックする。

- ⑤ 時間割画面で登録が追加されたことを確認する。

表示された時間割画面で、新規追加した履修登録が表示されていることを確認する。

	月曜日	火曜日
1時限		
2時限		
3時限		1161 数学

追加されたことを確認

(5) 履修を削除する。

	月曜日	
1時限	1002 中国語(一)[A]	✎
2時限		✎

削除する「履修番号」をクリック

申請中履修(センターへ登録を申請する履修です)

開講番号	1002	単位数	2
開講科目名	中国語(一)		
専攻(学科)	バイオ,化学,醸造,栄養,管理		
学年	1	クラス	A
学期	前期	時間種別	通常開講
曜日・時限	月1		
担当者	林 大智		
施設			

「履修登録の申請を取り消す」をクリック

戻る

履修登録の申請を取り消す

(6) 履修の登録がすべて終了したら履修届チェックをクリックする。「履修届チェック」をクリックしないと登録出来ません。

東京農業大学 Web 履修システム 履修の手引き 使い方

【学生のみならずへ】履修登録の本人控として、入力作業後に画面をプリントアウトしておくこと。(印刷方法は「使い方」参照)

お知らせ 前期・後期履修届 履修届チェック 終了

【平成24年度 後期 履修届】 チェック:未確認

1時限	7118 無機化学(二)	7126 情報基礎(二)[C]	7120 生物化学(一)
2時限	7036 英会話(一)(化学)[A]	7119 有機化学(二)	
3時限	7015 生命論理(化学)[E]	7027 TOEIC英語(二)(化学)[A]	7123 有機化学実験
4時限	7057 心の構造[A]	7123 有機化学実験	

「履修届チェック」ボタンをクリック

①履修数、エラーなどの結果が表示される。

【履修届単位数】			
	単位数(カッコ内は前の学期までの数)	制限数	前学期超単位数
前期	24	26	
後期	25	26	
年間	50	50	
他学部	0(0)		
他学科	0(0)		
大学院	0		
他学部+他学科+大学院	0	20	

【履修届チェック結果】					
エラー番号	エラー内容	開講番号	エラー内容	科目名	クラス
エラー番号	エラー内容	開講番号	エラー内容	科目名	クラス

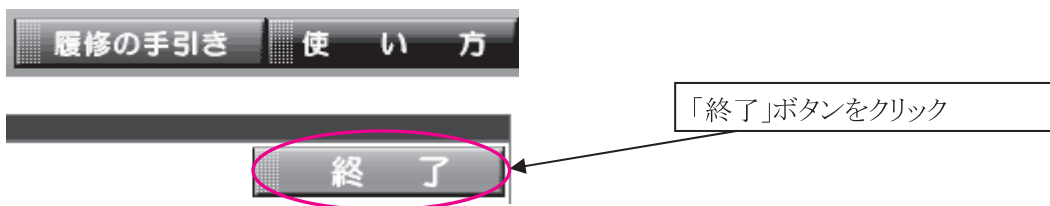
②履修単位数

履修登録の単位数が表示される。他学部、他学科の履修はカッコ内に前学期までの履修数が表示される。

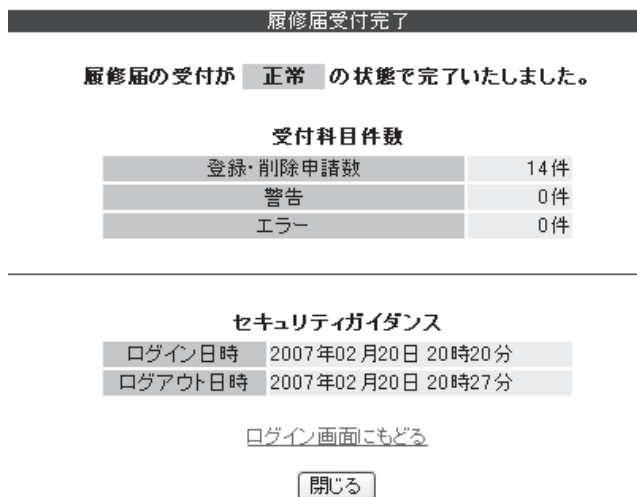
③履修届チェック結果

履修届のチェック結果が表示されます。エラーの場合は赤、警告の場合は黄色で表示される。チェック結果はシートチェックとエントリチェックの2種類がある。詳細はユーザ情報バーの「使い方」(ヘルプ)で確認すること。

(7) 作業終了をクリックして結果を保存してログアウトする。



(8) 履修届の受付が正常の状態でも完了したら「閉じる」ボタンをクリックしてログアウトする。



12 履修確認について

- (1) 学生ポータルサイトで履修登録状況を確認すること。確認日程等は5ページを参照のこと。
- (2) **履修登録の内容に修正がある場合は、必ず履修修正期間に学生ポータルサイトで修正すること。**
- (3) 履修登録は履修番号に基づき行っている。履修番号を誤って登録すると、エラーが表示されるか、全く別の授業科目が登録される場合があるので、登録されている授業科目名・クラス・担当者を確認すること。

13 履修確定について

- (1) 学生ポータルサイトで履修登録状況を確認すること。日程等は学生ポータルで掲示する。
- (2) 履修登録(修正・変更を含む)期間では、**自分の登録画面を必ずプリントアウト**し、いつでも確認できるようにすること。
- (3) 用語の説明
 - ①正規履修 → 初めて履修登録する場合の登録種別。在学年次の授業科目の場合は、指定したクラス分に従い履修登録すること。低学年次の授業科目の場合は、クラスを選んで履修登録すること。
 - ②再履修 → 一度履修した授業科目のうち、不合格(不可または未評価)になった授業科目を再度履修する場合の登録種別。有料(1科目 2,000円)である。
 - ③他学科履修 → 所属する学科以外の学科で開講している科目を履修する場合の登録種別(教職課程科目を除く)。なお、一度履修し、不合格のため再度履修する場合は、有料(1科目 2,000円)であり、他学科履修登録単位数にも加算する。
 - ④他学部履修 → 所属する学部以外の学科で開講している科目を履修する場合の登録種別(教職課程科目を除く)。なお、一度履修し、不合格のため再度履修する場合は、有料(1科目 2,000円)であり、他学部履修登録単位数にも加算する。

14 後学期履修変更の受付けについて

- ◇ 後学期の履修変更の手続きも学生ポータルサイトにて行う。
- ◇ 手続きの詳細(日程等)については、**9月上旬**に学生ポータルサイトに掲示するので確認すること。

履修に関する重要事項

履修登録に関する情報は、学生ポータルサイトを通じて行う。また、学期ごとの成績発表もすべての学科・学年において学生ポータルサイトを通じて行う。
普段から学生ポータルサイトを確認する習慣をつけること。

15 授業について

本学では授業に関するさまざまな情報を学生ポータルサイトにて開示している。授業を受講するにあたっては、次の事項について把握すること。

(1) 授業の内容を知るには・・・

Web シラバスを活用すること。Web シラバスには教育目的・各回の内容・受講上の注意事項などが記載してある。

(2) 授業の開講に関する情報は・・・

- ◇ 授業が休講になる場合は、休講掲示及び学生ポータルサイトの「休講情報」にて伝達する。
- ◇ スマートフォンからも確認することができる。
http://kyuko2.nodai.ac.jp/portalsv3_p/kyuko.do
- ◇ 休講となった授業の補講については、授業中における担当教員からの指示または掲示板において周知するので確認すること。
- ◇ 授業の教室を変更する(した)場合は、学生ポータルサイト及び掲示板に掲載する。

(3) 先生方に質問や相談をしたい・・・

授業に関する質問や相談は授業中に行うのが原則であるが、次の方法で行うことも可能。

- ① オフィスアワーを確認して研究室などを訪ねる
オフィスアワーとは、教員が学生の相談を受け付ける時間を設定すること。各教員のオフィスアワーは学生ポータルで確認することができる。
- ② Web シラバス記載のメールアドレスを確認して質問する
Web シラバス上にメールアドレスが記載されている場合は、メールを送って相談することができる。

(4) より良い授業にするために・・・

本学では授業をより良くするために、前学期と後学期に「学生による授業評価」を全科目で実施している。より良い授業を行うことは授業担当者の責務であるが、内容がきちんと受講生に伝わっているか、理解されているか、あるいは「わかりやすいか」を把握(測定)するためには授業評価を実施して受講生の声を集める必要がある。また、大学全体の授業と比較して自分の授業がどうであるかを把握する(つまり自分のポジションを確認する)ためにも授業評価は有効である。より良い授業は授業担当者と受講生が協力して創り上げるものであるため、積極的に実施すること。

なお、実施の方法については、学期毎に学生ポータルサイトに掲示する。

(5) 授業のことで困ったら・・・

授業に対して意見がある場合は教務課(厚木キャンパスは学生教務課)窓口に置いてある「授業に意見」という用紙を用いて提出することができる。これは日ごろ授業を受けていて感じることを、改善してほしいと願っていることを発言するためのものである。提出された意見は十分検討し、改善を図ることになっている。

また、学生ポータルサイトには、大学への要望・提案および授業・研究室、学生生活上の悩み等をメールで受け付ける窓口を開設している。

取扱い責任者： 東京農業大学・同短期大学部 副学長 E-mail g-center@nodai.ac.jp

※ 情報管理は十分配慮する。メールで相談する場合は**所属学科名と学籍番号を必ず記載すること**。

16 試験について

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するために試験を行う。授業科目によっては、レポートに代える場合がある。授業に出席し授業担当者の指示にしたがうこと。

(1) 受験資格

- ① 当該授業科目を履修登録していること(有料科目については、納金済みであること)。
 - ② 当該授業担当者の定める出席日数を満たしていること(原則として授業日数の2/3以上の出席が必要)。
 - ③ 当該学期までの学費、その他の納付金を納入していること。
- ※ 休学期間中に試験を受けることはできない。

(2) 定期試験

一定の期間内に時間割を決めて各学期に実施する試験である。定期試験を実施する授業科目及びその時間割は、試験開始1週間前に掲示板・学生ポータルサイトに発表する(実験・実習・演習科目は、原則として「定期試験」を実施しない)。

なお、定期試験またはそれに代わる試験を病気その他やむを得ない事由により欠席した場合は、指定された期日(試験時間割発表時に掲示)までに欠席の事由(当日の状況など)を証明する書類を持参し、試験欠席の手続きを行うこと。この届出により、追試験の受験を認める。

※ 欠席事由と添付提出書類は次のとおり。

欠席事由	提出書類
病気	医師の診断書(試験当日の健康状態を記載のものに限る)
交通機関の遅延	交通機関発行の遅延証明書
忌引(三親等までの親族の死亡)	死亡に関する書類(会葬通知等)
就職試験等	就職活動証明書(世田谷キャンパスはキャリアセンター、厚木キャンパスはキャリア課で証明を受けること) ※事由によっては証明が受けられない場合がある。必ず試験前、早めに窓口で確認すること。なお、企業説明会は認められないので注意。
災害(水害・火災等)	官公庁による被災証明書

(3) 定期試験に関する注意事項

- 試験時間は45分間。通常の授業時間とは異なるので注意すること。
- 学生証を所持していない学生は受験できない。なお、当日忘れた場合は、学生課(厚木キャンパスは学生教務課)にて仮学生証の発行を受けること(有料 500円・当日限り有効)。
- 受験科目が重複した場合は、事前に申し出ること。
- 試験場への入場は、試験開始後20分までとする(試験開始後は退場できない)。
- 試験場あるいは受験科目・授業担当者の間違い、無記名答案は受験しても無効となる。
- 答案は白紙であっても必ず提出すること。
- 不正行為が発覚した場合は、当該学期の評価をすべて無効(未評価)とする。
- 試験場においては、すべて監督者の指示に従うこと。
- その他試験に関しては関係窓口へ問い合わせること。

【試験時間】

授業時限	試験時限	試験時間	授業時限	試験時限	試験時間
1時限	1時限	9:00～ 9:45	4時限	7時限	15:00～15:45
	2時限	10:00～10:45		8時限	16:00～16:45
2時限	3時限	11:00～11:45	5時限	9時限	17:00～17:45
	4時限	12:00～12:45	5・6時限	10時限	18:00～18:45
3時限	5時限	13:00～13:45	6時限	11時限	19:00～19:45
	6時限	14:00～14:45			

※授業時限5・6時限/試験時限10時限は、授業時限5時限の科目が試験時限9時限に全て配当された場合、授業時限6時限は試験時限10時限になる。

(4) 追試験

定期試験またはそれに代わる試験を病気その他やむを得ない事由により受験できなかった者のうち、指定された期日までに試験欠席届を提出した者に対して各学期末に行う試験。

※ 追試験を欠席した場合の再度の試験は行わない。

【追試験の実施について】

追試験の実施方法は、各学期の成績表開示時に掲示板または学生ポータルサイトにて確認すること。

追試験は、当該学期の定期試験を不可抗力な理由(※「(2)定期試験」を参照のこと。)により、定期試験を受験できなかった場合に、その根拠書類とともに所定期間内に申請し、追試期間中に追試験を受けるもの。

17 成績相談について

各学期に履修した授業科目の評価(成績)については、学生ポータルサイト上で確認すること。この成績に関して質問がある場合は、成績開示後の成績相談日(通常授業と同曜日・同時限・同教室で実施)に出席し、授業担当者に直接指導を受けること。

なお、この成績相談は、評価の変更を目的として行うものではなく、今後の学習を進めるうえでどのような点に留意する必要があるのか、どのような点が理解できなかったのかを確認するために行うものである。この制度の主旨を理解のうえ出席すること。

事前に所定用紙に記入して持参すること。

18 成績評価とGPAについて

(1) 成績評価

「秀」・「優」・「良」・「可」が合格で、「不可」・「未評価」は不合格。成績評価の基準は、次のとおり。

【成績評価基準のガイドライン】

判定	成績	表示	成績評価基準	GP	成績評価内容
合格	秀	S	100～90点	4.0	特に優れた成績(履修者の5%以内)
	優	A	89～80点	3.0	優れた成績
	良	B	79～70点	2.0	妥当と認められる成績
	可	C	69～60点	1.0	合格と認められる成績
不合格	不可	D	59点以下	0	合格と認められる成績に達していない
	未評価	F	—	0	評価に値しない

(2) GPAについて

自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるため、GPAを算出している。

① GPA対象科目

GPAの対象科目は、①「卒業要件に算入できる科目」であって、かつ②「5段階評価によって成績を認定する科目」とし、③「学生が履修登録した科目」とする。

したがって、他学科・他学部聴講科目などは含め、リメディアル教育科目、教職・学術情報課程、特別活動プログラム及び認定科目は除かれる。

② GPAの算出方法

【a. 学期ごとのGPAの算出方法】

学期ごとのGPA算出は、次の式による。

$$\frac{\text{(当該学期で履修登録したGPA対象科目のGP} \times \text{その科目の単位数)の合計}}{\text{当該学期で履修登録したGPA対象科目の単位数の合計}}$$

注1) GPA対象科目で不可(D)及び未評価(F)科目は、分母に含む。

注2) 通年科目は後学期に含めGPAを算出する。

注3) 「不可」・「未評価」となった科目を再履修した場合は、再履修した当該学期の対象科目に含め、GPAを算出する。

注4) 前項の場合、「不可」・「未評価」となった学期のGPAは変更しない。

【b. 通算GPAの算出方法】

通算GPAは、在学中に履修登録したすべてのGPA対象科目に基づき、その算出は次の式による。

$$\frac{\text{(在学中に履修登録したGPA対象科目の最新GP} \times \text{その科目の単位数)の合計}}{\text{在学中に履修登録したGPA対象科目の単位数の合計}}$$

注1) 通算GPAは毎学期末に算出する。

注2) 再履修した場合は1科目としてカウントする(ダブルカウントしない)。

注3) 再履修した科目のGPは、最新の評価に基づく値で算出する。

19 時間割を参照するうえでの留意事項

(1) 学期表示

- ① 同一時限に開講する科目は横並びに表示している。
- ② 通年科目は前学期と後学期の両方に表示している(※一部の学科を除く。)
- ③ 集中授業科目は開講学期に従い表示している。

(2) 科目の種類(区分欄に表示)

必……………必修科目

選必……………選択必修科目

空欄……………選択科目

(3) クラス分け表示

- ① クラス分けのある科目は、クラス分け表に基づき自分の所属するクラスを確認すること。
- ② 大学の総合教育科目時間割に大文字のA・B・C…でクラス分け表示がある場合は、オープン科目であるので、各自の時間割に合わせて選択し、受講すること。
- ③ クラス分けのない科目は、クラス表示をしない。

(4) 隔週表示

区分欄の前に「隔週」と表示した科目は、1週おきに単独あるいは2科目交互に実施する科目である。実施については掲示及び学科の指示に従うこと。

(5) 集中授業科目について

- ① 農場で行う実習の日程は、学生ポータルサイトに掲示するので必ず確認すること。
- ② 教室については後日掲示する。

(6) 担当者表示

担当者が複数の科目は備考欄に全担当者の名前を列記していることがある。

(7) 教室表示

- ① 教室欄に2室以上配当している科目は、いずれの教室で実施するかを担当教員または開講学科の事務室(厚木キャンパスは学生教務課)で確認すること。
- ② 実験・実習・演習室は略称表示をしているので、「実験・実習・演習室略号一覧」(※「農学部」、「応生・環境・国際学部」、「短大部」の時間割先頭ページに記載。)で確認すること。
- ③ 教室の場所がわからない場合は、窓口で確認すること。

(8) 開講時限・教室等の変更

時間割・教室等は、変更になることがあるので、必ず掲示板または学生ポータルサイトを確認すること。

(9) 教職課程科目の時間割

- ① 学科欄に学科名の短縮表示のある科目は、学科指定の科目である。当該学科・学年の学生は必ず指定の時間で履修すること。
※ 再履修者はこの限りではない。各自の時間割にあわせて選択し、受講すること。
- ② クラス欄にアルファベット表示のある科目はオープン科目である。各自の時間割にあわせて選択し、受講すること。

(10) 履修番号欄の「**」は、次の場合に表示している**

- ① 当該時限の前の科目を引続き開講する場合
- ② 後学期において通年科目を表示する場合